

## 清流の国ぎふ 防災・減災センター げんさい未来塾スーパーバイザー



いとう み え こ  
伊藤三枝子

1956年福井県生まれ。大垣市在住。2013年に防災士を取得。岐阜県内を中心に各種団体、自治会、学校などで講演会や研修会の講師を務めている。2016年4月より、「清流の国ぎふ防災・減災センター」主催の、自主防災活動を主体的に担う人材を育成する「げんさい未来塾」に入塾。2017年1月に「清流の国ぎふ女性防災士会」を立ち上げ会長として就任。2017年3月げんさい未来塾を卒塾後は、げんさい未来塾1期生として人にやさしい避難所の設営訓練、暮らし目線のHUG（ハグ：避難所運営図上訓練）や地域の問題点を知るDIGの指導を行っている。子ども、障がい者、外国人、福祉施設など要配慮者のための防災活動をはじめとして、家庭や学校などにおいて日常生活の防災力向上を目指し、講演会や研修会などの活動を行っている。地域においては複数の町による避難所運営委員会を設立、合同防災訓練を通じ非常時における協力体制を構築するため一緒に活動している。男女共同参画の視点から考える防災やオンライン会議室Zoomを使った防災講座にも取り組んでいる。2020年4月「清流の国ぎふ防災・減災センター」コーディネーターに就任。



いわい けい じ  
岩井慶次

1956年恵那市に生まれ、アマチュア無線技士や消防設備士の資格を取得。恵那市防災研究会会長として防災講座の講師を務めながら地域の自主防災組織の重要性を説く。東濃地方に発足させたネットワーク組織「美濃東部防災力強化ネットワーク会議」の幹事を務めている。2020年より日本防災士会岐阜県支部長に就任し、2021年から日本防災士会理事を務め全国を目線に活躍している。趣味のアマチュア無線がきっかけで、警察や消防と連携しながら、非常時の通信体制などについて行政と協定を結びボランティアで支援している。2006年に防災士の資格を取得し、各地で防災の心構えや災害時のノウハウを伝える活動をしている。2012年5月には東日本大震災の貢献が認められ、社会貢献支援財団より表彰されている。2015年4月より、岐阜県と岐阜大学が共同設置した地域防災の実践的シンクタンク機能を担う「清流の国ぎふ防災・減災センター」コーディネーターに就任。さらなる高度な知識や見識を習得し、地域防災の要となる人材である「防災エキスパート」の育成に尽力している。趣味はアマ無線、アウトドア・キャンプなど。令和5年6月日本防災士機構より防災士功労賞を受賞している。



くりたのぶゆき  
**栗田暢之**

1964年岐阜県瑞穂市（旧穂積町）生まれ。名古屋大学大学院環境学研究科修了。1995年阪神・淡路大震災を契機に、現在まで50ヶ所を超える災害現場で支援活動を展開するほか、平常時には、被災地での学びを生かした地域防災力向上や災害ボランティア育成等に尽力している。2000年東海豪雨水害時は「愛知・名古屋水害ボランティア本部」本部長を務めた。2011年東日本大震災では東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）代表世話人、愛知県被災者支援センター長なども務める。震災がつなぐ全国ネットワーク代表、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議幹事、その他、内閣府「多様な主体間における連携・協働による「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」構築の具体化に向けた検討会」座長、防災庁設置準備アドバイザー会議専門委員ほか岐阜県「能登半島地震を踏まえた震災対策の見直しに係る合同会議」委員など地方自治体の各種検討会委員も歴任。また、多様なセクターとの連携推進を図るため、特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）を2016年に設立し、代表理事を兼任。岐阜大学、至学館大学非常勤講師も務める。2015年清流の国ぎふ 防災・減災センターコーディネーターに就任。



のじりとちひろ  
**野尻智周**

1972年岐阜生まれ。2003年岐阜大学大学院連合農学研究科を単位修得修了。現在、ぎふNPOセンター 理事・事務局長、NPO法人 森のなりわい研究所 副代表理事、一般社団法人 Nancy（ぎふマーブルタウンの実施団体）理事などのほか、複数のボランティア団体の運営に携わる。山歩きが趣味だったため、大学は農学部林学系を専攻。研究の一環として市民参加の森づくりなどにも関わる。大学卒業後は環境調査、ワークショップの運営、自然環境学習のサポート等に携わる。2005年の愛・地球博では地球市民村小パビリオン「森のいろいろ館」でコーディネーターを努める。2007年より岐阜市の市民活動支援センター勤務を経て、2017年よりぎふNPOセンターに入職。同年9月から事務局長。岐阜大学非常勤講師、岐阜県災害ボランティアコーディネーター（岐阜県社会福祉協議会委嘱）なども務める。「人づくり」を進めて「まちづくり」につなげるため、日々奮闘中。



こやま ま き  
小山真紀

1972年岡山県生まれ。1998年山口大学大学院理工学研究科知能情報システム工学専攻博士前期課程を修了。NTTでシステムエンジニアとして勤務した後、1999年より(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所で地震防災に係わる研究に従事しつつ2004年に東京工業大学総合理工学研究科人間環境システム専攻にて博士(工学)を取得。2010年より京都大学の安寧の都市ユニットにおいて、都市系工学と健康科学の両面から、健康で過ごしやすい、災害時にもレジリエントな社会を実現するための教育・研究に従事。2015年より岐阜大学に着任し、岐阜県との共同設置センターである清流の国ぎふ 防災・減災センターに協力。2024年より岐阜大学地域減災研究センターセンター長(清流の国ぎふ 防災・減災センター副センター長)。専門は地域防災学であり、災害時の人間行動と死傷に関する研究、コミュニティや市町村の防災対応など災害サイクル全体を通じた研究を続けている。現在は地震防災だけにとどまらず、世帯及び地域コミュニティにおける防災力(世帯・地域コミュニティの災害に対するレジリエンス)や、社会の多様性が広がる中、それぞれの事情に基づく困難さや対応のあり方などに着目した取り組みを進めている。オンライン講座「事例に学ぶ災害対策」と「事例に学ぶ災害対策・要支援者対策編」をYouTubeで配信中。

詳細はこちら (<https://researchmap.jp/makik>)